

経営比較分析表（令和6年度決算）

埼玉県 秩父広域市町村圏組合

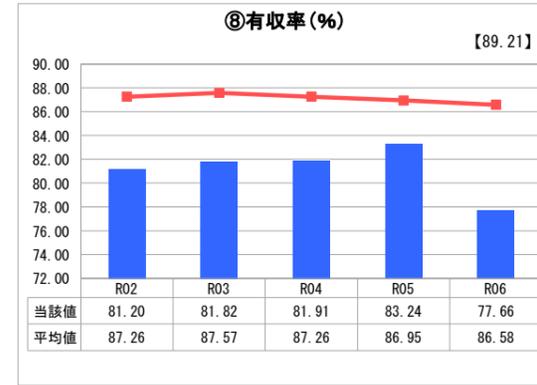
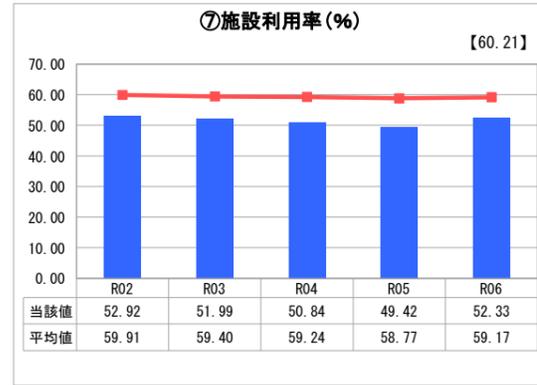
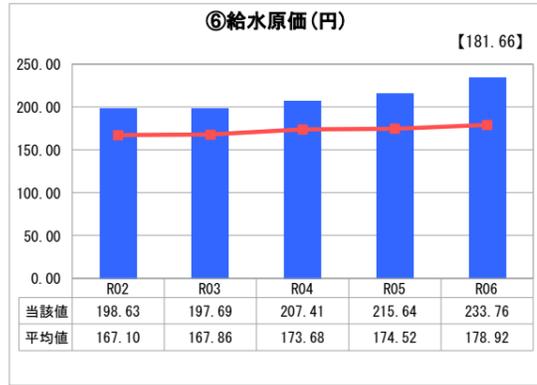
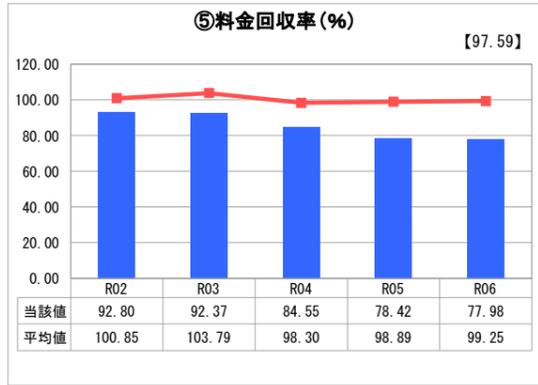
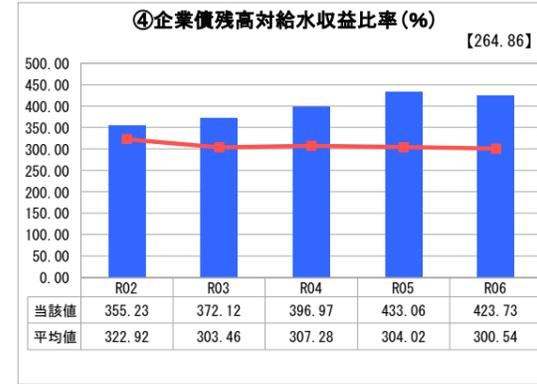
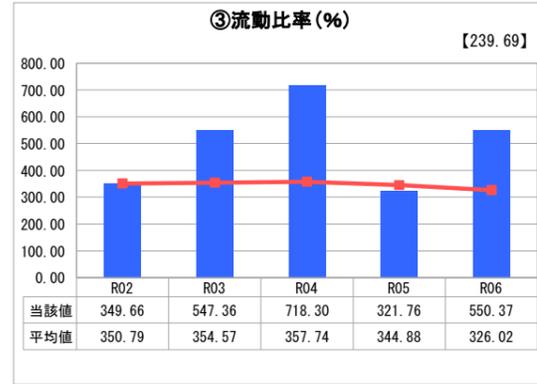
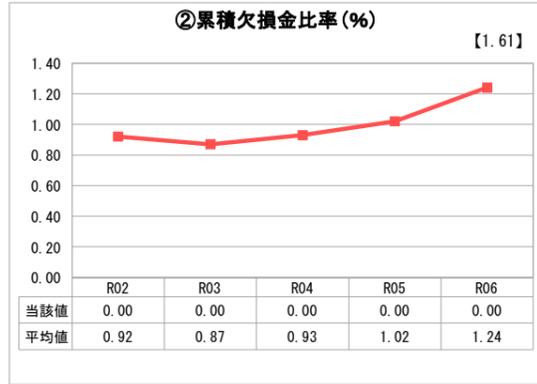
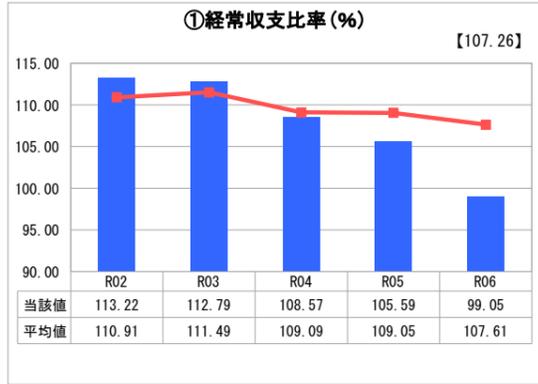
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	82.78	98.54	3,388	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
-	-	-
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
88,024	374.26	235.19

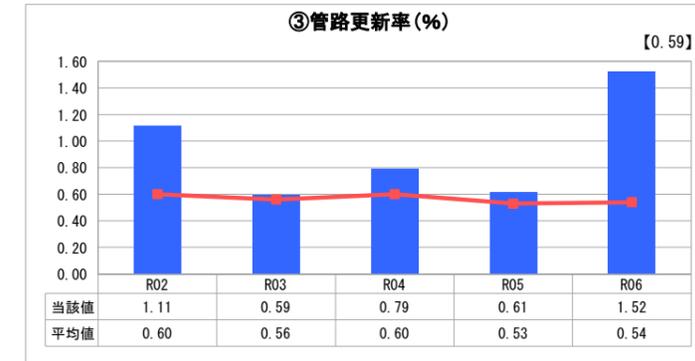
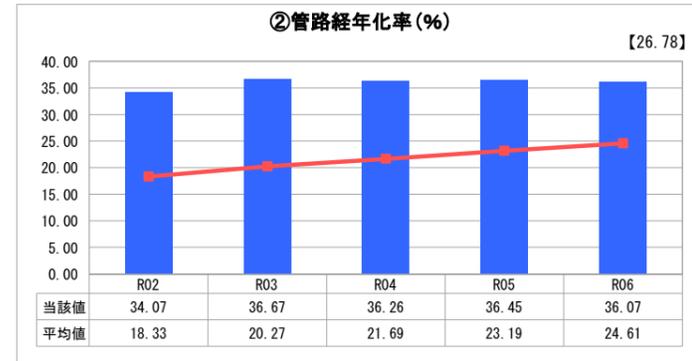
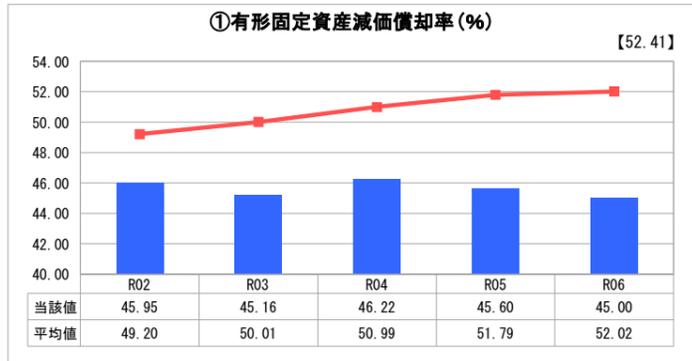
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率、② 累積欠損金比率、⑤ 料金回収率
 ① 給水収益の減少に伴い、年々低下する傾向にあります。R6年度は、減価償却費、資産減耗費、物価高騰の影響と委託内容の見直しに伴い委託料が増加したことにより大幅に低下しています。② 生じていません。⑤ R6年度も、R4～5年度に引き続き、構成市町の一部で物価高騰対応重点支援地方創生交付金を活用した水道料金減免を実施した結果、数値が低くなっています。令和8年4月には料金改定を実施予定のためR8年度は回復する見込みですが、構成市町繰入金により改定率を抑える措置を講じるため、今後も料金回収率の低下が懸念されています。
 ③ 流動比率
 各年度、一時的な未払金の増減に伴い、数値が変動しています。R6年度は、年度末の建設改良未払金の減少により、流動比率が増加しています。資金の流動性には問題はありませんが今後も将来の見込みを踏まえながら流動資産の確保に努めます。
 ④ 企業債残高対給水収益比率
 施設の更新ペースを上げていることから起債残高が多い状態となっています。企業債への過度の依存が経営を圧迫しないよう、計画的に施設の更新を進めます。
 ⑥ 給水原価、⑧ 有収率
 ⑥ 広域化後は広域化のスケールメリットにより減少傾向にありましたが、施設管理業務の更なる委託料、漏水待機業務の委託料、減価償却費の増加で給水原価は上昇傾向にあります。
 ⑧ 管路の更新が老朽化に追いついていないことにより漏水が多発し、大幅に低下しています。類似団体を大幅に下回っていますが、漏水修繕や老朽管の更新ペースを上げることで改善に努めます。
 ⑦ 施設利用率
 漏水により配水量が増え、施設利用率が上昇していますが、施設能力には余剰が多いため、今後も施設のダウンサイジングにより規模の適正化と経営状況の改善に努めていきます。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率、② 管路経年化率
 管路の更新を鋭意進めています。浄水施設等の老朽化も進んでいる状況です。今後も老朽化が進む中、法定対応年数を超えた漏水の多い管路を重点的に更新していくことで数値の改善を目指します。
 ③ 管路更新率
 R2年度以前は1.1%前後を維持していましたが、R3年度以降は管路以外で更新工事、施設の築造工事に重点を置いたことで数値が低下しました。R6年度は、広域化事業が終盤となり、管路の更新工事が増加し、高い数値となっています。投資・財政計画において現実的な更新基準を設定し、優先順位の高い管路から計画的に更新するよう努めます。今後も必要な更新を先送りすることのないよう投資計画を常に見直し、有利な財源確保に努めていきます。

全体総括

平成28年4月から秩父市、横瀬町、皆野・長瀬上下水道組合（皆野町、長瀬町）、小鹿野町の水道事業が統合され、秩父広域市町村圏組合水道事業が開始されました。この広域化による施設の統廃合により、事業の合理化を実施しています。
 当組合は、大正13年、埼玉県内初の水道として事業開始した施設を所有していることから、老朽化についても県内で最も進んでいる状況です。「持続可能な経営基盤の確保」は全国的な課題となっていますが、必要な投資と料金改定を先送りすることなく、健全な投資・財政計画のもと、事業を進めていきます。
 今後も秩父地域が力を合わせ、安心・安全な美味しい水を将来にわたって安定供給していきます。